

7. 中間小活—常識の可変性

2025. 6. 9. 大橋 幸泰

0. 講義の趣旨

日本史を材料に歴史との向き合い方を学ぶ／それを前提に、近世・近代を概観へ

1. 現代を知るためには現代だけ見ているだけでよいか？

歴史を学ばなければ、国民国家が歴史的産物であることと、その矛盾の存在を自覚することは不可能
→歴史を学ぶのは何のためか／現代を相対化するため

*** 現代人の常識・価値観は絶対ではない／現代人(私たち)を取り巻く枠組みはすべて歴史的産物**

→その歴史的経緯を知って初めて、現代の諸問題について理解を深めることができる

→そのうえで、私たちはどう対処するか、どう生きるかを考える／未来への責任の自覚化につながる

2. 「日本史」という科目名

私の回答：「日本列島に生活した人々を主な登場人物とする歴史」の略

【参考文献】

『網野善彦著作集』全 19 巻(岩波書店、2007-09 年)

『鹿野政直思想史論集』全 7 巻(岩波書店、2007-08 年)

『安丸良夫集』全 6 巻(岩波書店、2013 年)

【付 記】

- ・明日までに、Waseda Moodle にて講義記録の提出を求める。／今回は本時間での議論を含めて、ここまでの講義の感想を書いてください。